

# 各教科の指導における目標設定と指導の重点化

企画者 成田 美恵子 (筑波大学附属桐が丘特別支援学校)  
 司会者 西垣 昌欣 (筑波大学附属桐が丘特別支援学校)  
 話題提供者 成田 美恵子 (筑波大学附属桐が丘特別支援学校)  
 小山 信博 (筑波大学附属桐が丘特別支援学校)  
 指定討論者 下山 直人 (筑波大学人間系・筑波大学附属久里浜特別支援学校)

KEY WORDS: 指導の重点化 学びの連続性 桐が丘L字型構造

## 【企画趣旨】

共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システム構築のための特別支援教育の推進が叫ばれて久しい。とくに特別支援学校には、的確な実態把握に基づいた指導目標の設定や、重点化した指導及びその評価から授業改善を行い、幼児児童生徒一人一人の能力を最大限に伸ばす教育が求められている。また、次期学習指導要領等の改善のポイントには、学びの連続性を重視した対応が明示された。一人一人の児童生徒に対し、個に応じた学びを積み上げることのできる指導が、以前にも増して求められている。

そこで、特別な支援を必要とする児童生徒（以下、児童生徒）に目を向けると、その実態の多様化は著しく、脳性疾患を中心として起因疾患も様々である。指導においては、障害特性による学習上の困難への対応や、ICTを活用した教材・教具の工夫などが図られている。

しかしながら、「学びの連続性においてどのように学びを積み上げていくか」という視点から指導が行われているというよりは、むしろ、ひとつひとつの学習場面を切り取って、児童生徒の困難さに対する手立てや配慮を工夫することのみに関心が向けられてはいないだろうか。

このような関心から、特別支援教育に携わる私たちが、学校教育において児童生徒を育てていく視点について今一度考え、教科指導の在り方について議論したい。

## 【話題提供者の要旨】

### (1) 「桐が丘L字型構造」に基づく指導

筑波大学附属桐が丘特別支援学校（以下、当校）では、あらゆる指導において、「指導する事項の系統性（縦軸）」と「個別的な要素（横軸）」をふまえ、その両軸が重なったところにこそ、障害特性等をふまえ、児童生徒一人一人の能力を最大限に伸ばす教育がある、とする考え方を『「L字型構造」に基づく指導』として提唱している（Fig）。この考え方は、障害種やその程度によらず、特別な教育的ニーズのある子どもすべてに対する指導を考える際に活用できる。

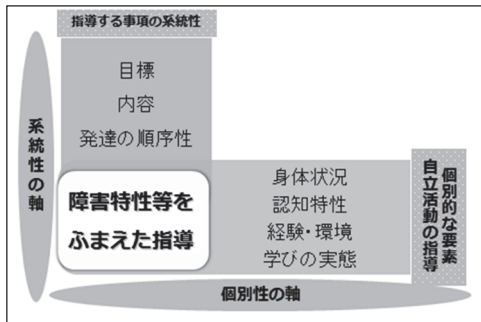


Fig 指導を行うための基本的な考え方「桐が丘L字型構造」

### (2) 各教科の指導における目標設定と指導の重点化における課題及びその解決に向けた手続き

学習に難しさがある児童生徒は、在籍する学年の学習指導要領の目標及び内容、進度での学習が難しく、学習に遅

れや不均衡が生じることが少なくない。そのような児童生徒は「下学年や下学部の各教科等の目標・内容を含み編成する教育課程」で学ぶことができるが、その指導には以下のような現状があるといえよう。

- ・障害特性に対する手だて・配慮を図るだけの指導になる。
- ・できていないところを繰り返し扱ってしまう。
- ・全ての内容を広く扱うだけになる。
- ・児童生徒の興味や関心に沿った学習内容にならない。
- ・指導上「どのような力を身に付けさせたいか」という視点を持ちにくい。
- ・担当者の力量任せの指導になる。

この現状からは、以下のような課題が見えてくる。

系統的に指導することが難しく、指導の一貫性を担保できない

そこで、当校では、指導目標・指導内容の精選と重点化の手続きを以下のように導き出した。

- ・障害に基づく学習上の困難によって、身に付きにくい事項があることをふまえる。
- ・各教科等の目標及び内容の系統性、乳幼児期の発達の系統性等を整理することで、指導目標・指導内容を導き出すための基軸（＝L字型構造における「縦軸」）をもつ。
- ・「縦軸」および一人一人の児童生徒の学習習得状況や障害特性（＝L字型構造における「横軸」）をふまえ、各教科等において重点的に扱う指導目標・指導内容を見極める。
- ・在学期間を通して効果的に学ぶための指導内容の配列を検討し、指導計画を立案する。

(成田 美恵子)

### (3) 教科指導における縦軸の再整理と指導への展開

理科を例に考えると、肢体不自由を有する児童生徒の学習上の困難さは、上肢障害に基づく観察実験器具の操作性、経験的背景の不足や偏りが指摘されてきた。また、脳性疾患を起因とする児童生徒はこれらに加え、見えにくさ・とらえにくさといった認知面での困難さも指摘されている。指導では、児童生徒の実態に応じて、これらの学習上の困難さに対応することを横軸としながら、系統的に学びを積み上げていくために縦軸をふまえた指導が求められる。

そこで、理科の学習における系統性に注目すると、自然科学の知識の側面と自然科学の方法を用いて真理を明らかにする思考の側面がある。指導目標・指導内容を導き出す基軸をもつために、もともと系統的に積み上げられてきた知識の側面に対して、思考を育てる系統性を整理し、指導計画を立てる手続きを検討した。

(小山 信博)

## 【指定討論者の要旨】

「一人一人の学びの連続性」を確保することは、効果的な教育を実践する上で欠かせない視点であるが、具体論があまり語られてこなかった。話題提供を受け、学びの連続性を確保する視点から、指導計画、授業実践及び評価の在り方等を検討したい。

(下山 直人)

(NARITA Mieko, NISHIGAKI Masayoshi, KOYAMA Nobuhiro, SHIMOYAMA Naoto)